

丹羽博士の書籍「**激增活性酸素が死を招く**」も、いよいよ今回と次回でまとめる段階となりました。

第7章『科学的に証明されたSODの画期的な効果』から、博士が開発されたSOD様作用食品の効果について、抜粋してお届けします。かつて丹羽博士の論文や講演で使われた図が挿絵になっていて、在りし日の博士の姿を偲びつつ、偉大な研究への敬意を新たにさせられます。

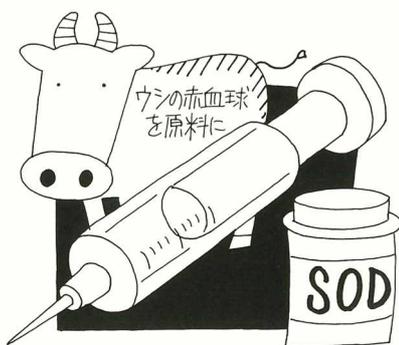


丹羽耕三博士の から学ぶ

第7章 科学的に証明されたSODの画期的な効果

腸から吸収できる低分子抗酸化剤

P186



もし有効なSODの注射があると仮定した場合を考えてみます。まず、重症の病気や難病にかかったら、SODの注射(L-SOD)をすればよいということになりますが、症状が軽くなって退院する難病の患者さんも入院中は注射をしていても、軽快したら注射を打ちたがりません。しかし、治りきる病気ではありませんので、内服でもSODを続けて摂らなければなりません。そこで私は、何か内服でき

る抗酸化剤はないものかと思案していました。

低分子の抗酸化剤、皆さんよくご存知のビタミンC・ビタミンE・ビタミンB₂などをはじめ、ベータカロチン・カテキン・フラボノイド(複数)などで、これらは分子量が小さく(大体二〇〇~四〇〇くらい)、腸管からの吸収が可能で、試験管の実験で活性酸素を有効に低下させることができるということがわかってきたところでした。

当時、著者はこのようなビタミン剤を含む低分子の抗酸化剤(薬品)を薬品卸屋さんから買い、適当に混合して、活性酸素、過酸化脂質に関連のある病気の患者さんに飲ませていましたが、ほとんど効果がありませんでした。

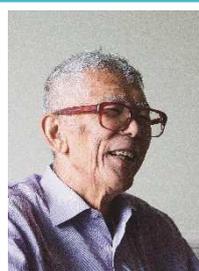
今ここに面白いエピソードを一つお話しいたします。私より五、六年先輩の皮膚科の教授が“実は僕の女房が四~五年前から顔に大きなシミができていて、何を飲ませても効果がない。君のSODとかいう健康食品が、シミ・ソバカスに効くそうだが、女房に送ってくれないか”といわれました。

私の開発したSOD様作用食品をたくさん送らせたところ、その数カ月後、“四~五年続いてどうしても治らず、みっともなかった顔のシミが消えてきました。こんな嬉しいことはありません”という感謝の意を込めたぶ厚いお手紙をいただいたのでした。

試験管の中では顕著に活性酸素が低下しても、実際内服してもらうと効果はあまり期待できない、ベータカロチン、ビタミンE、ビタミンCなどの低分子抗酸化剤はなぜこのような矛盾した現象が起こるのでしょう。



丹羽耕三博士プロフィール



昭和7年大阪生まれ
昭和37年京都大学医学部卒業
京都大学医学博士
土佐丹羽クリニック院長
丹羽免疫研究所所長
令和4年没(享年89歳)

活性酸素とSOD研究の世界的権威。
国際医学雑誌に発表された英文研究論文は70編を越す。
西洋医学の限界を知り、自然の植物・穀物から独自の生薬を開発し、全国の診療所でがんや膠原病、リウマチ、アトピーなどに大きな治療効果を上げてきた。
多くの臨床例に裏付けられたユニークな講演には定評があり、学会の座長および招待講演活動が多い。
また、複数の著名な国際医学雑誌への投稿論文の審査員を30年以上務めた。

(i)化学構造は同じでも合成品より天然のものが効く

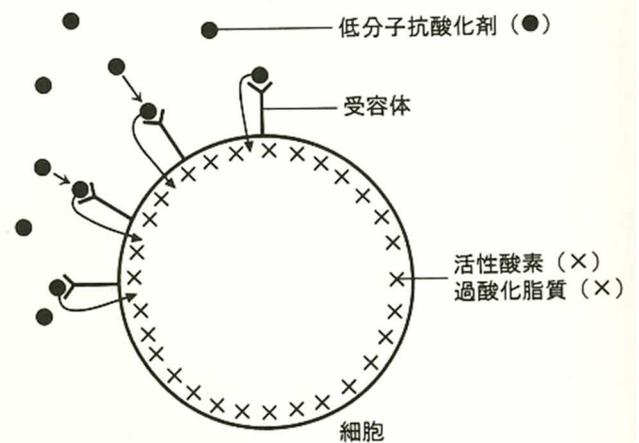
P189

“合成品でも天然のものでも化学構造式は全く同じで、臨床効果に優劣の差があるのはおかしい”はずが、実際使ってみると化学合成品は効果が落ちるのです。血液中に取り込まれたこれらの抗酸化剤は、細胞の膜の中に入っていないと、実際の効果が出現しないのです。細胞内に取り込まれるためには、受容体(receptor)という受け取り手が細胞についていて、ここで一度受け取られてから、細胞の中に取り込まれる仕組みになっているのです。ところが、この受容体は、受け取る物質の“好き嫌いをする”ということなのです。

人間の細胞の受容体は、化学合成の物質より、天然のものの方をより好んで受け取って、細胞内に取り込もうとするのです。

いくら化学構造式が同じでも、人間の細胞の受容体は天然のものを巧みに嗅ぎ分け、何万年も慣れている天然のものの方をよりたやすく受け取ろうとするものと理解されます。

図15. 細胞の受容体と吸収された物質

**(ii) 単一の低分子抗酸化剤の大量使用は逆効果を生む**

P192

活性酸素の除去を目的として、試験管の中でも、身体の中にも低分子抗酸化剤を入れる場合は、一種類の低分子抗酸化剤を単独に大量に使用するのはだめで、かえって逆効果の（活性酸素を低下どころか逆に増加させる）場合があるということです。必ず複数のものを使用する（摂取する）ことが大切になります。

例えば、ビタミンCを例にとってみましょう。試験管中に活性酸素を入れておきます。そこへビタミンCを少しずつ量を増やして加えていきますと、ビタミンCの添加量に比例して活性酸素は減少していきます。しかし、あまり大量に加えると、突然活性酸素が増加する現象がみられるのです。この場合、他の抗酸化剤と一緒にいれてやると、こういう現象は起こりません。量が極端に増えると結果が逆転する現象は、他の抗酸化剤（ビタミンEやキノン類など）などにもよくみられます。

(以下次号へ)

編集後記

病気の原因の90%といわれる活性酸素と、その対策としてのSOD酵素、体内でSODと同じ働きをするSOD様食品。今回ご紹介した書籍はSOD様食品の作用機序を順序だてて解説している名著でした。長寿社会に向けて、読んでくださった皆様の健康な生活にお役に立てたら幸いです。



前田美恵子

免疫療法の権威丹羽耕三博士に35年に亘り師事して得た知識をもとに、全国で開催される健康セミナーの講師を務める。「AOVA SODをもっと知りたい。」「AOVAの他の製品も知りたい。」「他の方の経験を聞いてみたい。」という方、お気軽にご相談ください。